

つぎの文章を読んで、後の問題に答えましょう。

一まいの紙を、つくえの上に立ててみましょう。紙はすぐに、くにやりとたおれてしまいます。では、同じ紙をじゃばらのように何回も折ってから立てると、どうなるでしょうか。今度は、しっかりと立つはずです。紙の量は同じなのに、なぜ、このようなちがいが生まれるのでしょうか。

平らな紙はうすいので、少しの力で曲がってしまいます。ところが、折り目をつけると、紙の一部が横を向いて、かべのような面ができます。上からおされたとき、この面が力を受け止めてくれるので、紙は曲がりにくくなるのです。

この仕組みは、わたしたちの身の回りでも使われています。たとえば、荷物を運ぶ箱に使われるダンボールを、切り口から見てください。二まいの紙の間に、波の形に折られた紙がはさまっています。この波が、上からの重さをささえているのです。また、うすいプラスチックのコップの中には、横にすじやでこぼこがついているものがあります。これも、うすい材料を強くするためのくふうです。

このように、ものを強くする方法は、材料をあつくしたり、ふやしたりすることだけではありません。形をくふうすれば、少ない材料でもじょうぶにできるのです。身の回りのものに折り目やでこぼこを見つけたら、それがどんな役目をしているのか、考えてみましょう。

(この問題のための書き下ろし)

問一 紙に折り目をつけると、紙の一部が横を向いて、何ができますか。本文から十字までで書きぬきましょう。

か	べ	の	よ	う	な	面			
---	---	---	---	---	---	---	--	--	--

問二 だんボールの例は、何を説明するために挙げられていますか。いちばんあうものを、ア～ウから一つえらびましょう。

ア 紙は、とても曲がりやすいものだということ。

イ 形をくふうして紙を強くする仕組みが、身の回りで使われていること。

ウ だんボールは、紙を何まいもかさねるほど強くなること。

イ

問三 「紙は曲がりにくくなるのです」とありますが、なぜ曲がりにくくなるのですか。四十字までで書きましょう。

け	の	の	折
止	面	よ	り
め	が	う	目
る	上	な	を
か	か	面	つ
ら	ら	が	け
。	の	で	る
	力	き	と
	を	、	か
	受	そ	べ

問四 この文章で筆者がいちばん言いたいことは何ですか。いちばんあうものを、ア～ウから一つえらびましょう。

ア ものを強くするには、あつい材料を使うのがいちばんよい。

イ 紙はうすいので、ものを作る材料には向いていない。

ウ 形をくふうすれば、少ない材料でもじょうぶにできる。

ウ

【小5】国語 文章問題 説明文 I 答えと解説

問一（二十五点） 答え：かべのような面

解説：二つ目のまとまりの「かべのような面ができます」から。

問二（二十五点） 答え：イ

解説：三つ目のまとまりの最初の「この仕組みは、わたしたちの身の回りでも使われています」から。アは二つ目のまとまりの話で、例の目的ではない。ウは本文に書いていない。

問三（二十五点） 答えの例：折り目をつけるとかべのような面ができ、その面が上からの力を受け止めるから。

解説：二つ目のまとまりから。「面ができる」と「面が力を受け止める」ことの二つが入っていれば正かい。

採点のポイント（二つそろって満点、一つなら半分）

- ①折り目をつけると、かべのような面ができる
- ②その面が、上からおされた力を受け止める

問四（二十五点） 答え：ウ

解説：最後のまとまりから。アは「あつくしたり、ふやしたりすることだけではありません」という本文と合わない。イは本文に書いていない。